

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月7日
【四半期会計期間】	第62期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	日東工器株式会社
【英訳名】	NITTO KOHKI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小武 尚之
【本店の所在の場所】	東京都大田区仲池上二丁目9番4号
【電話番号】	03(3755)1111(大代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理統轄 近藤 朋士
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区仲池上二丁目9番4号
【電話番号】	03(3755)1111(大代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理統轄 近藤 朋士
【縦覧に供する場所】	日東工器株式会社 大阪支店 (大阪市東成区深江北二丁目10番10号) 日東工器株式会社 名古屋支店 (名古屋市名東区社台三丁目173番2号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第3四半期連結 累計期間	第62期 第3四半期連結 累計期間	第61期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (百万円)	19,368	21,041	26,530
経常利益 (百万円)	3,286	4,237	4,524
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	2,299	2,943	2,975
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,232	3,551	2,731
純資産額 (百万円)	48,248	52,108	49,746
総資産額 (百万円)	55,586	60,542	57,563
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	108.21	138.51	140.02
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	86.79	86.06	86.41

回次	第61期 第3四半期連結 会計期間	第62期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	28.55	46.87

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

<迅速流体継手、機械工具>

当社の連結子会社(特定子会社)であったNITTO KOHKI U.S.A., INC.は、当社の連結子会社であるMEDO U.S.A., INC.を存続会社とした吸収合併をしたことにより、連結の範囲から除外しております。

この結果、平成29年12月31日現在では、当社グループは、当社、子会社9社、その他の関係会社1社により構成されております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、輸出の増加などにより、国内での生産の増加や設備投資需要が堅調となっております。海外においても半導体関連の需要が堅調に推移しています。

世界経済を見ると緩やかな回復基調が継続していますが、米政権の保護主義的政策、中国経済の下振れや北朝鮮情勢など地政学リスクの高まりもあるため、先行きは楽観視できないと考えております。

このような経営環境の中で、当社グループは、国内外とも需要は堅調に推移し、当第3四半期連結累計期間における売上高は210億41百万円となり、前第3四半期連結累計期間193億68百万円と比較すると8.6%の増収となりました。利益面では、営業利益は41億82百万円となり、同32億87百万円と比較すると27.3%の増益、経常利益は42億37百万円となり、同32億86百万円と比較すると28.9%の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は29億43百万円となり、同22億99百万円と比較すると28.0%の増益となりました。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりです。

迅速流体継手事業は、国内・海外ともに需要が堅調に推移し、売上高は90億89百万円（前第3四半期連結累計期間比12.7%の増収）となりました。利益面では、売上げの増加によってセグメント利益は24億65百万円（同30.7%の増益）となりました。

機械工具事業は、海外における電動ドライバの需要増加によって、売上高は69億90百万円（同5.5%の増収）となりました。利益面では、生産体制再編による経費の増加がありましたが、セグメント利益は9億38百万円（同4.1%の増益）となりました。

リニア駆動ポンプ事業は、海外での売上げが堅調に推移し、売上高は32億92百万円（同4.9%の増収）となりました。利益面では、売上げの増加と昨年に比べて経費負担が減少したことによって、セグメント利益は5億22百万円（同65.6%の増益）となりました。

建築機器事業は、国内の需要が堅調で、売上高は16億68百万円（同8.1%の増収）となりました。利益面では売上げの増加によって、セグメント利益は2億56百万円（同39.7%の増益）となりました。

海外売上高は、65億92百万円（前第3四半期連結累計期間比13.5%の増収）となり、海外売上高の連結売上高に占める割合は31.3%となりました。アジアのみならず欧米においても売上げが増加となりました。

（2）経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

なお、第3四半期までの実績と第4四半期の景況等を勘案し通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細については、平成30年2月6日に公表いたしました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（4）研究開発活動

当社グループの研究開発活動は、当社（日東工器株式会社）が行っております。

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費は、5億72百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに記載したように、取引先の信用リスク、為替変動リスク、素材の仕入価格の高騰リスク、海外製造拠点の製造不能リスク、協力会社の確保リスク、災害リスク等があります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社は無借金経営を続けており、当面は資金借入れの計画はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	51,958,200
計	51,958,200

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	21,803,295	21,803,295	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	21,803,295	21,803,295	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	21,803	-	1,850	-	1,925

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 555,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,237,500	212,375	-
単元未満株式	普通株式 10,395	-	-
発行済株式総数	21,803,295	-	-
総株主の議決権	-	212,375	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権の数1個)含まれております。

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日東工器株式会社	東京都大田区仲池上2-9-4	555,400	-	555,400	2.55
計	-	555,400	-	555,400	2.55

(注)上記のほか株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が132株(議決権の数1個)があります。

なお、当該株式数は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」と「単元未満株式」の株式数にそれぞれ100株と32株が含まれております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,734	23,210
受取手形及び売掛金	6,850	7,270
有価証券	5,401	5,999
商品及び製品	3,038	3,400
仕掛品	206	258
原材料及び貯蔵品	1,558	1,921
繰延税金資産	559	591
その他	280	321
貸倒引当金	3	3
流動資産合計	41,626	42,969
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,705	11,009
減価償却累計額	5,065	5,233
建物及び構築物(純額)	5,640	5,775
機械装置及び運搬具	3,319	3,423
減価償却累計額	2,322	2,505
機械装置及び運搬具(純額)	996	917
工具、器具及び備品	6,735	6,855
減価償却累計額	6,145	6,305
工具、器具及び備品(純額)	590	550
土地	3,824	3,682
リース資産	1,690	1,735
減価償却累計額	494	593
リース資産(純額)	1,195	1,141
建設仮勘定	173	295
有形固定資産合計	12,421	12,363
無形固定資産		
その他	226	481
無形固定資産合計	226	481
投資その他の資産		
投資有価証券	2,055	3,747
長期貸付金	71	61
繰延税金資産	356	127
その他	822	807
貸倒引当金	15	15
投資その他の資産合計	3,289	4,727
固定資産合計	15,937	17,573
資産合計	57,563	60,542

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	561	1,083
リース債務	200	200
未払法人税等	557	700
賞与引当金	546	311
役員賞与引当金	21	15
その他	1,379	1,548
流動負債合計	3,266	3,860
固定負債		
リース債務	991	937
退職給付に係る負債	2,483	2,538
役員退職慰労引当金	346	374
資産除去債務	10	11
その他	718	713
固定負債合計	4,550	4,574
負債合計	7,817	8,434
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,850	1,850
資本剰余金	1,924	1,924
利益剰余金	46,264	48,017
自己株式	918	918
株主資本合計	49,120	50,873
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	816	1,283
為替換算調整勘定	168	41
退職給付に係る調整累計額	27	14
その他の包括利益累計額合計	619	1,227
非支配株主持分	6	6
純資産合計	49,746	52,108
負債純資産合計	57,563	60,542

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	19,368	21,041
売上原価	9,497	10,171
売上総利益	9,871	10,869
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	1,706	1,750
賞与引当金繰入額	153	174
退職給付費用	133	125
役員退職慰労引当金繰入額	27	27
販売促進費	705	663
研究開発費	498	572
その他	3,360	3,372
販売費及び一般管理費合計	6,584	6,686
営業利益	3,287	4,182
営業外収益		
受取利息	22	23
受取配当金	54	51
為替差益	-	6
受取家賃	24	24
その他	40	36
営業外収益合計	141	141
営業外費用		
売上割引	68	78
為替差損	66	-
その他	7	9
営業外費用合計	142	87
経常利益	3,286	4,237
特別利益		
固定資産売却益	-	98
特別利益合計	-	98
特別損失		
固定資産売却損	-	57
特別損失合計	-	57
税金等調整前四半期純利益	3,286	4,278
法人税等	986	1,334
四半期純利益	2,299	2,943
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,299	2,943

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	2,299	2,943
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	175	467
為替換算調整勘定	1,252	127
退職給付に係る調整額	9	12
その他の包括利益合計	1,067	608
四半期包括利益	1,232	3,551
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,233	3,551
非支配株主に係る四半期包括利益	1	0

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第2四半期連結会計期間において、当社の平成29年5月9日の取締役会決議に基づき、同年8月に連結子会社(特定子会社)であったNITTO KOHKI U.S.A., INC.は、連結子会社であるMEDO U.S.A., INC.を存続会社とした吸収合併をしたことにより、連結の範囲から除外しております。

なお、MEDO U.S.A., INC.は、NITTO KOHKI U.S.A., INC.に社名変更をしております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形	- 百万円	357百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	855百万円	820百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月17日 定時株主総会	普通株式	531	25.0	平成28年3月31日	平成28年6月20日	利益剰余金
平成28年11月7日 取締役会	普通株式	552	26.0	平成28年9月30日	平成28年12月7日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月21日 定時株主総会	普通株式	552	26.0	平成29年3月31日	平成29年6月22日	利益剰余金
平成29年11月7日 取締役会	普通株式	637	30.0	平成29年9月30日	平成29年12月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	迅速流体継手	機械工具	リニア駆動ポンプ	建築機器	
売上高					
外部顧客への売上高	8,063	6,623	3,138	1,543	19,368
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	8,063	6,623	3,138	1,543	19,368
セグメント利益	1,886	901	315	183	3,287

セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	迅速流体継手	機械工具	リニア駆動ポンプ	建築機器	
売上高					
外部顧客への売上高	9,089	6,990	3,292	1,668	21,041
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	9,089	6,990	3,292	1,668	21,041
セグメント利益	2,465	938	522	256	4,182

セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	108円21銭	138円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	2,299	2,943
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	2,299	2,943
普通株式の期中平均株式数(千株)	21,248	21,247

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成29年11月7日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....637百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....30円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成29年12月7日

(注) 平成29年9月30日現在の株主名簿に記載された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月7日

日東工器株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉村 基 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 照内 貴 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日東工器株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日東工器株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。